


 東京都立墨東病院

連携だより

発行 東京都立墨東病院 事務局医事課
〒130-8575 東京都墨田区江東橋4-23-15
TEL: 03-3633-6151(代表)
<http://www.bokutoh-hp.metro.tokyo.jp>

VOL.43

新年、明けましておめでとうございます



昨年は大変 お世話になりました

墨東病院長 古賀 信憲 (写真中央)
副院長 梅北 信孝 (前列右)
副院長 渡邊とよ子 (前列左)
事務局長 齋田ゆう子 (後列右)
看護部長 黒坂真理子 (後列左)
医療連携室長 永島 正一 (後列中央)

地域連携医療機関の先生方をはじめ職員の皆様には、初春のお慶びとともにご挨拶を申し上げたいと思います。またあわせて、多方面でご支援やご協力いただいた昨年中の医療連携推進にも深く御礼申し上げます。引き続き本年もよろしくお願いいたします。

昨暮には大きな政治の変化がありました。ダブル選挙も我々都民にとっては厳しいものもありましたが、医療界にとっても何らかの変化が起きるのでしょうか。地域医療に携わる諸先生方や我々にとっては日常の診療に励み、地域住民の健康を守ることが第一義であることに変わりはないでしょう。また、政治が変わっても来るべき高齢者社会に変わりはありません。ますます地域医療連携の重要性、地域協働の必要性が高まります。地域基幹病院としての当院の役割、また地域医療を支える先生方の役割、お互いに協力し支援し合い、地域住民の期待に応えられる医療を展開していきたいと考えております。

都立病院では現在、「次期計画」を策定しており、春にはまとめ上がる予定です。将来に向けての「医療・介護機能再編」も提示される中、当院は「高度急性期病院」として地域の实情に合わせた医療機能をもつ救急・総合医療センター、地域の基幹病院を引き続き目指し、次期計画を策定しています。その中に大きな要素として『地域医療連携』、『地域医療機関との協働』があります。患者サービスの向上も含めて医療計画の推進には

地域の先生方、医療機関との『連携・協働』が欠かせません。先生方とは当院並びに地域医療の方向性について機会あるごとに話し合ったいと思いますが、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。新增築棟建設もこの計画の一翼を担っております。現在順調に工事が進んでおりますが今しばらくご辛抱いただき、新たな診療機能を充実させた26年8月の新棟完成を待って頂きたいと思っております。

地域の救急医療にはまだ問題が多々ありますが、地域救急会議等の開催で少しずつ改善の方向にもあります。また災害の発生や感染症のパンデミックなどが想定されてもいますが、普段からの医療連携体制を確立し、準備を怠らなく対策を立てることで、最小の被害で乗り切ることができるでしょう。そのためにも中心となって動くべき当院の使命は重いと感じておりますが、地域一体となって力を出し合うことも必要です。本年も感染症、周産期、災害、救急など各種の連携会議が計画されますので、ぜひ参加をお願いいたします。

春には当院と3医師会での合同医療連携の会も予定され、また昨年同様に各種の連携委員会や協議会、懇話会、そして地域医療連携講演会をはじめ地域の医学会等計画がされております。「双方向の顔の見える連携」と共に、地域医療の質の向上にもお互いの力を出し合ったいと思っております。本年もご指導、ご鞭撻のほど、よろしく申し上げます。

東京都立墨東病院 院長 古賀 信憲

墨東病院 ICT および感染防止対策連携カンファレンスについて

「感染症診療と感染対策は野球の攻撃と守備のようなものである」私の師匠である岩田健太郎先生（現神戸大学教授）にかつて言われた言葉です。

原因となる微生物を突き止め、抗菌薬を使い、感染症を治療する、という行為が感染症診療における一連の流れです。これは感染症にかかった後の対応はできます。一方で、「どのようにかからないようにするか」にも対策が必要です。適切な感染症対策を行うことは、入院患者及び病院に関わる全ての方の感染症にかかる危険性を下げることができます。

院内感染に限定すれば、入院中の方はいろいろな理由で入院しています。このような方が入院中、院内感染を起こした場合、入院していない健康な方よりも治療が難渋し、大きな問題となります。このような不幸な事態をできるだけ減らすことが感染対策の大きな目的の1つです。

墨東病院のICT（Infection Control Team）は私がチーム長となり、その他、感染管理看護長、各診療科の医師、感染対策に関わる看護師、薬剤師、微生物検査技師、庶務係でメンバーができています。日々の業務としては、耐性菌対策、感染対策に関する病棟ラウンド、院内職員を対象とした感染対策の基本的な講義、などを行っており、月1回のミーティングで情報を共有しています。感染対策委員会が別に組織されていますが、こちらは院内感染の状況の各部署への確認・情報共有・伝達が中心となっており、墨東病院ではICTが感染対策を実際に組織、運営している役割を担っています。

院内感染対策は「お金」がかかります。ディスプレイの手袋、ガウン（エプロン）を始めとして、院内感染では使い捨ての備品を多く使います。これは一度使用した物品には使用した患者（及び医療従事者）から病原体が付着しているためです。そのため、日本中の感染対策医師、看護師はできるだけお金をかけずに有効な感染対策を行うか、に日々頭を悩ませています。

2012年になり、院内感染対策を行う上で追い風となるでき事がありました。診療報酬での「感染防止対策加算」がつけられた



感染症科医長 岩淵千太郎

ことです。いくつかの条件がありますが、院内感染対策に取り組むことで診療報酬に上乗せされるようになりました。条件の中には、院内感染対策に取り組む専従のスタッフがいること、多職種からなる感染制御チームを組織すること、などがありましたが、これまで当院で行ってきたことは大差なく条件を満たすことができました。

感染防止対策加算の条件の1つとして、他の院内感染対策を行う病院と連携し合同の感染防止対策の取り組みに関するカンファレンスを開催する、というものがあります。これは感染対策は地域で取り組むべし、という厚労省の方針があるように思われました。

2012年度は当院周辺の7病院と連携しています。最低4回の合同カンファレンスを行う条件があり、2012年12月時点では3回のカンファレンスを行ってきました。連携している病院は病床数、スタッフ数、入院患者層など多様です。合同で日頃の感染対策における問題点や各施設で工夫している点などを挙げてもらい、自施設での感染対策に取り込んでいます。まだ感染防止対策加算制度が始まったばかりであり、今年度は連携施設の現状を知ることですが、今後、更に地域での連携を含め、連携病院間で感染対策のレベルアップを図ることができたら、と考えています。

当院の感染対策にはまだ至らぬ点も多く、日々勉強していく立場でございますが、今後ともご協力よろしくお願ひします。



紹介予約のご案内

電話予約センター

TEL:03(3633)5511(直通)
受付時間 午前8:30～午後5:00

診療放射線科検査予約

MRI・CT検査 TEL:03(3633)6191(FAXと兼用)
RI検査・放射線治療 TEL:03(3633)6192(FAXと兼用)
受付時間 午前9:00～午後5:00

問い合わせ先

医事課「医療連携係」 TEL:03(3633)6151(代表)内線2115
FAX:03(3633)7130

当院の受診は救急の場合を除き、紹介予約制を原則としています。

緊急の場合

緊急の場合は必ずご一報下さい

月～土 午前9時～午後5時

TEL:03(3633)6151(代)
当該診療科の救急当番医師

夜間、休日

TEL:03(3633)6151(代) ER担当

三次救急

TEL:03(3633)6151(代表)
救命救急センター